

# 令和7年度 府中市立府中第十小学校 学校経営報告

府中市立府中第十小学校  
校長 草刈 あずさ

## 1 今年度の取組と自己評価

### (1) 教育活動への取組と自己評価

#### 目標1

#### 児童の心に寄り添った指導の充実

- ①いじめ防止 ②特別支援教育

- ①いじめが発覚してから速やかに解決し、見守りを行っている。児童や保護者、第三者の立場から、学校のいじめ対応について考えることができるよう、主任教諭以上の教員に職層別の研修を実施した。心の健康観察で、児童は相手を選んで、相談を気軽にすることができた。
- ②「寄り添う」「認める」「優しく」というスタンスが教員に定着しており、多様な困り感の児童のニーズに応じた支援に努めた。

#### 目標2

#### 学ぶ意欲の向上と個に応じた学びの充実

- ①指導方法の改善による基礎的な学力の確実な定着 ②教師の指導力の向上

- ①全学年で中位・下位層にアプローチする算数の指導方法の見直しに取り組み、フォームで回答する東京ベーシックドリルテストの3学期の平均点は、1学期と比べ、6.1ポイント上昇した。
- ②上記の算数の授業改善と合わせ、昨年度の校内研究の社会科における単元内自由進度学習の実践も年間を通して継続した。また、児童がタブレット端末を利用する授業は日常化している。

#### 目標3

#### 地域・保護者との信頼関係の構築

- ①保護者・地域（スクコミ）との協働 ②保・幼・小・中の連携

- ①教員は、日常的に必要な事項について保護者に連絡をとっている。アウトリーチ型の面談では、本校の教員は保護者対応へのストレスがなく、保護者の理解と協力を得られている。今年度は、スクコミとPTAと管理職による防災研修を兼ねた社会科見学体験会を実施した。青少対による郷土かるた大会を新規に学校開催とし、110人の児童が府中の郷土かるたを楽しんだ。
- ②小1・中1への円滑な接続を心掛けた。特に、幼稚園・保育園の園児や保護者向けの学校公開は年間を通じて、計画的に実施した。

#### 目標4

#### 働き方改革の推進・全ての教育活動の基となる、教師力の向上

- ①スピード感のある校務改善 ②教員による地域行事への協力

- ①今年度は、置き勉に対応した清掃方法への転換や、会議のない特別時日程の年度途中の設定など、必要に応じて見直しを行った。
- ②くらやみ祭り、文化センター祭り、太鼓の響き、青少対のイベントなどに半数程度の教員が参加した。

## (2) 重点目標への取組と自己評価

### 重点1 不登校傾向の児童への早期対応、不登校児童への多様なアプローチと学びの保障

目標値	自己評価
<p>①不登校児童及び家庭が学校や他者とつながる機会を設けるため、不登校児童の登校デイを年間5回以上、保護者の茶話会を年間2回開催する。</p> <p>②サポートルームを利用する児童及び保護者の面談と、支援に関するアセスメント、学校生活支援シートの作成、校内委員会での支援策の共有などを行う。</p> <p>③13日以上欠席した児童に、プッシュ型の面談を行い、心配や不安に寄り添う。</p>	<p>①オープンデイ（登校デイ）を13回実施。他の児童と関われなかった児童が継続して参加し、かがやきの体験、入室につながった。保護者の茶話会3回実施。</p> <p>②児童及び保護者との面談は、担任や支援部、管理職が適宜行った、独自の支援シートの作成まではできていない。</p> <p>③13日以上欠席した児童の面談を3学期にSCと支援部の教員で行った。児童の思いなどを聞き、保護者と共有した。</p>

### 重点2 子ども自身が学び方を身に付け、自ら学ぶ授業の日常化

目標値	自己評価
<p>①校内研究や授業観察の授業の機会には、問題解決的な授業展開、もしくは、算数に苦手意識をもつ児童のための授業改善（時間配分、順序、問題数）を工夫した授業を全教員が1回以上公開する。</p> <p>②社会科の単元内自由進度学習は継続して取り組む。</p> <p>③1単位時間の中で、「教員が説明する時間」よりも「児童が自分で調べたり考えたりする時間」と「友達と意見を交流する時間」を増やす。</p>	<p>①算数の授業の時間配分、順序、問題数を単元や児童の定着の度合いによって変えることが定着し、基礎的な内容を身に付けることにつながった。</p> <p>②社会科の単元内自由進度学習を3年生の1学期から実施し、児童が自分の学び方を身に付けてきている。ノートのまとめ方にコメントし、校内に掲示し、学年間の交流を行った。</p> <p>③自分で調べたり考えたりすることは好むが、意見の交流まで至っていない。</p>

## 2 次年度以降の課題と対応策

